

# 学園タイムス

■発行日：平成 27 年 9 月 30 日  
■発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園  
■発行者：理事長 中尾清一郎  
■編集：法人広報誌編集委員

2015-09 Vol. **8**  
社会福祉法人 佐賀整肢学園

Sagaseishigakuen times

佐賀県内を走る電車シリーズ

## JR九州「ロマンシング佐賀ラッピング列車」

ゲーム「サガ」シリーズの25周年記念として、その名前と貴名の佐賀が同音であることをきっかけに共同企画したイベント「ロマンシング佐賀」が開催されました。イベントの一環として、平成27年3月21日から8月16日までの間、唐津線（佐賀駅～西唐津駅）と乳肥線（西唐津駅～伊万里駅）をサガシリーズのキャラクター等の装飾を施したラッピング列車が運行しました。



- 巻頭言…2
- REPORTS…3・4
- 事業所紹介…5
- 事業所 TOPICS…6・7
- タイムス特集…8
- 学園 FOCUS…9
- 局長随想 リレーコラム…10
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…10





## 家庭的なやすらぎと楽しみを

佐賀整肢学園・かんざき清流苑  
苑長

江口 泰子

佐賀整肢学園・かんざき清流苑は、高齢者の「人間性の自立」と「家庭的な暖かさ、明るさ、やすらぎ」を基本理念に、平成10年に開設しました。又、地域・在宅福祉の拠点として、通所介護及び居宅介護支援事業等各種福祉サービスを実施し、利用者様のニーズにお応えできるよう地域社会へ貢献してきました。

私がかんざき清流苑に着任して7年目となります。それまではこどもセンターで児童の発達支援に長年努めてきた中で、接するご利用者様との生活の切り替えに少し時間はかかりましたが、現在ご利用者様との時間を楽しく過ごさせて頂いています。清流苑開設当初は認知症の方の入院受入に対してこどもセンターでの病棟責任者としてどう対応していか頭を抱えていたものですが、今は逆にこどもセンターの受入をお願いする側、以前と比べると非常に重度の入所者が増えており、対応が厳しいなか、受入して頂いていることについて本当に有り難く思っています。

今、清流苑は有り難い事に満杯でございます。しかし、前述しましたが利用者の方々の状況は身共に重度化傾向にあり、日々のケアの一つひとつに気を抜かない様、神経を使っています。清流苑を選んで頂いた利用者様、ご家族の思いに出来る限りお応えすること、又、利用者皆様の最高の「終の棲家」を提供したいという思いで接し、その役割を果たしていきたいと考えております。

ご存知のとおり平成12年度に介護保険制度が施行されて3年毎の改正がっておりますが、今年は第6期で、私が着任して3回目の改正となります。医療の現場に長く従事した私にとって介護の現場の厳しさを改正の現場に感じる事になりました。特に今年度の介護報酬改定は全体として▲2.27%、特養をはじめ各サービス大幅のマイナス改定となりました。改定のポイントは“重度者の受入から看取り”で特養は地域のセーフティネットとしての在宅での生活が困難な中重度者の要介護者を支える機能に重点化されています。又、サービス評価の適正化と効率的なサービス提供体制の構築が求められています。高齢者が住み慣れた地域で尊敬をもって自分らしい生活を継続できるようにするため、地域包括ケアシステム導入に向けた取組を進めることが重要となっております。そして、今後も増大する介護ニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、介護職員の安定的な確保並びに更なる資質向上への取組等が必要とされます。介護福祉施設サービスの基本報酬の見

直しについては、引き続き収支差が高い水準を維持している事等を踏まえ、事業の継続性に配慮しつつ、評価を適正化していくべきだと考えます。そういった中、今回の介護保険法の改定の結果により、多床室の居住費負担の見直し等で一定以上の所得者への利用料負担が2割の増となり、介護現場の利用者様からサービスの質についてもより一層高いレベルが求められるようになっております。限られたリソースの中でいかにしてサービスの維持・向上を図っていくのかを念頭に、さまざまな工夫を検討し、研鑽を怠らず、利用者様一人ひとりの「幸福」を実現し「地域から認められる施設作り」を目指していくことが、我々の課題となっております。その為にも人材確保が最も肝要です。確保した人材が定着し、より優秀な人材を育成すること、モチベーションを維持することが施設の魅力を高め、安心安全なサービスへ繋がると考えております。これに係りましては、「社会的に意義のある仕事」、「やりがいのある仕事」等、介護に対する肯定的なイメージ作りについても努めていきたいです。

団塊の世代が75歳以上となる2025年にはわが国の医療・介護のニーズはピークを迎えます。要介護高齢者の増大し、認知症の方は約700万人（約5人に1人）に上ると推測されています。

誰しもが年齢を重ね、老いを迎えます。迎える場所は違っても温もりのある場所が確保できるよう、今後も明るい将来に向かって社会・政策が検討されることを願っています。

最後にこれから介護と向き合っていく方々に対し、一つの詩をご紹介します。

手紙～親愛なる子供たちへ～（認知症研修資料より一部抜粋）  
年老いた私が ある日迄の私と違ってたととしても  
どうかそのままの私のことを理解して欲しい  
私が服の上に食べ物をごはもても 靴ひもを結び忘れても  
あなたに色んなことを教えたように見守って欲しい  
略  
あなたが 弱い足で立ち上ろうと私に助けを求めたように  
よめる私に どうかあなたの手を握らせて欲しい  
私の姿を見て悲しんだり 自分が無力だと思わないで欲しい  
あなたを抱きしめる力がないのを知るのはつらい事だけど  
私を理解して支えてくれるだけを持っていて欲しい  
きつとそれだけでそれだけ 私には勇気がわいてくるのです  
あなたの人生の始まりに私がしっかりと付き添ったように  
私の人生の始まりに私がしっかりと付き添ったように  
私の人生の終わりに少しだけ付き添って欲しい  
後略

家庭的な安らぎをいつまでも……………笑顔で！

海外  
研修

## 清水基金海外研修事業の報告

こども発達医療センター 総合相談室 主任 今村朋子

今回清水基金海外研修の機会を得て、約3ヶ月半の期間、先進国のケアマネジメントの実践を学ぶためにアメリカ（イリノイ州シカゴ、ワシントン州タコマ、シアトル）、オーストラリア（クイーンズランド州ブリスベン）にて研修を行いました。

4月18日に日本を発ち、全国から集まった5名の研修生とともに、シカゴにあるイリノイ州立大学にて約2週間の合同研修に参加しました。そこでは、アメリカの医療及び福祉制度やその歴史について講義を受け、研修者がそれぞれテーマとしている障害福祉に関する機関への見学実習を行いました。



シカゴにて研修生とともに筆者右より2番目

5月より個人研修として、自らのテーマに沿った研修先を選択していきました。アメリカでは歴史的に様々な機関でケアマネジメントの実践があり、イリノイ州では障害福祉サービス事業所、学校、療育機関、病院などでインタビューを行い、使用している様式や手法など情報収集を行うことが出来ました。

またワシントン州では、念願でありました重症児を対象としたグループホームにて現場研修を行いました。タコマ地区にある5カ所のグループホームにそれぞれ6~7名の児童が入居しており、その多くは医療的ニーズが高く、呼吸器を使用していました。施設入所が一般的ではないアメリカでは、グループホームへも貧困や薬物依存、民族上の問題など深刻な理由での入居が多く、その出入りに関する相談員が裁判所や保護者と緊迫したやりとりをしていたことが印象的でした。

6月中旬にはオーストラリアへ移り、医療福祉制度やケアマネジメントの歴史などを学びながら、研修を行い

ました。オーストラリアは、わが国同様高齢化が進み、高齢福祉分野を中心に独自のケアマネジメントシステムが構築されています。それを追う形で障害福祉制度も近年改正が行われていました。

今回の研修では、各地で高齢福祉、障害福祉、医療、児童、虐待など様々な分野で、ケアマネジメントを実践する現場を訪れることが出来ました。

業務の内容や連携の方法、使用している様式等の情報共有を行う中で、国や州毎の制度等は大きく異なるものの、相談技術やケアマネジメント業務自体への大きな違いを感じることはありませんでした。しかし支援の視点では大きな違いを感じました。アメリカでは、障害のある人の権利擁護に重点が置かれ、ケアマネジメントを行う上でも、そのプランが本人の希望するものに沿っているか、その人の権利を侵害するものではないかという視点で常にチェックされていました。またケアマネージャーの養成研修や現任のための研修が州単位で実施され、どの現場においても細やかなスーパーバイズが行われており、ケアマネージャーの質を保つための研修体制が整えられていました。

今回の研修を通し、ケアマネジメントの本質を知り、人材育成のための研修体制の重要性を改めて学ぶことが出来ました。今後、地域の障害児者が安心して生活できるように相談支援専門員としてのスキルアップを目指し、地域の相談支援体制の中で一躍を担い、貢献していきたいと考えています。



オーストラリア オペラハウスにてオペラ鑑賞！



シアトルの療育施設SWと

## 研 究 大 会

### 第39回九州地区救護施設職員研究（佐賀）大会

7月2・3日に佐賀市で開催された第39回九州地区救護施設職員研究（佐賀）大会に参加し、かんざき日の隈寮が今回は事務局として大会の運営にも関わりました。全体会では、当施設の志波伸明副係長が「かんざき日の隈寮における地域移行に向けた取り組み」について意見発表を行いました。

これまでは居宅生活を希望された利用者については、行政機関と連携しながら、単身生活のための居宅（アパート）を探す支援のみを行っていましたが、しかしそれだけでは生活が破綻するケースが多くありました。そのため就労と単身生活を両立できるように、地域移行に向けて段階的に支援するシステムを整備しました。第1段階として就労訓練活動へ参加、第2段階として一般事業所への就労、第3段階として居宅生活訓練事業を実施し、その後、地域移行となります。時間をかけて段階的に支援しながら、利用者を取り巻く環境の調整も行っています。また、施設独自の事業として、退所後のアフターフォロー（定期的な電話相



談、居宅訪問等）を行い、退所者の単身生活をサポートしています。

今回の大会テーマである「救護施設が取り組む生活困窮者支援の推進に向けて」について、九州各施設の様々な意見を聞くことができました。福祉ニーズが多様化、複雑化するなか救護施設が有する機能や役割を生かした生活困窮者支援の在り方を今一度見直し、地域社会に貢献することが必要だと考えます。地域で必要とされる施設を目指し、自己研鑽に努めていきたいと思ひます。（小柳清人）

## 職 員 研 修 会

### 平成27年度 職員研修会



平成27年8月7日(金)に唐津市内にあります唐津ロイヤルホテルにおいて27年度職員研修会を開催しました。

毎年法人内より講師数名にお越し頂き、福祉・医療の知識・指針等多岐に渡る分野において御教授頂いております。今年は法人内施設より14名、からつセンターより36名、総勢50名の参加となりました。寺崎法人事務局長より今後行われる社会福祉法人制度の見直し・改革の



展望から今後の佐賀整肢学園の在り方等お話し頂いたことを皮切りに講師の皆様にご講義頂きました。

今回は、研修や外出等が少なく、さらに所属部署からでさえることが少ない看護師・生活支援員・保育士などの職員が多く参加しており、彼らにとっては他法人の方、他部署との情報交換や交流の貴重な機会となり、密な研修となったようでした。

また、唐津市では同日「浜崎納涼花火大会」が開催されており、ホテルからその様子を見物することができました。

今年度も講師の皆様のご協力の下、無事研修会を終えることができました。来年度以降も引き続き、皆様にご協力を頂けますよう宜しくお願い致します。

（からつ医療福祉センター 田中亮平）

## 在宅サポートセンター

からつ医療福祉センターでは、平成27年3月に4階建ての新たな増築棟が完成し、4月から在宅サポートセンターとして在宅部門の充実を図りました。今回はこの在宅部門を紹介します。



### 児童発達支援センター まつぼっくり教室

まつぼっくり教室は児童発達支援センター福祉型の事業所です。一日の利用定員は24名、利用登録者は27名です。

開設から13年目を迎えていた旧児童発達支援センターの建物は、利用者の増加に伴い手狭になり、運動療育などでは、スペース確保に苦慮してきました。今回新築された建物には、広い居室と個別の状況に応じて対応できるような個室が完備され、きめ細かく個々のニーズに対応できる空間となりました。園児さんたちは、新しい環境にもすっかり慣れ、笑顔いっぱいの療育を行っています。当センターでは、家族の皆さんの様々なニーズにできるだけ対応するため、ご家族様の就労時間に合わせて延長療育を実施しています。唐津市、伊万里市及びその周辺地域は、佐賀県内の他地域に比べ面積が広く、車で往復2時間に及ぶ通園エリアとなっています。この広いエリアに対応し、できるだけ親御さんの負担を軽減するため、6台のバスにより送迎を行っています。今後も利用者本位の視点にたち、支援を充実させていければと考えています。



### 児童発達支援事業所 アルトンあかり

アルトンあかりは、主たる対象者を重症心身障害児とする児童発達支援事業所です。一日の利用定員は5名、登録利用者は6名です。増築棟完成により、半個室的な空間が確保され、個々の体調や状況に合わせて療育活動や機能訓練が行えるようになりました。



日々の療育活動では、生活リズムを整えること、体調を整えることが大きな目標となります。

園児さんたちの様々な反応にきめ細かく対応し、コミュニケーションをとっていくことがとても大切であり、この繰り返しで元気な笑顔をたくさん育ててくれます。この反応をご家族様と共有しながら、日々充実した関わりが実践できればと思っています。

### 放課後等デイサービス事業所 まつぼっくり教室・アルトンあかり

からつ医療福祉センターでは、利用者の方々の安心・安全を人員配置的にも確保するために、重症心身障害児を対象とした放課後等デイサービス事業所（アルトンあかり）とその他の方を対象とした放課後等デイサービス事業所（まつぼっくり教室）の2つの放課後等デイサービス事業所を運営しています。



今回の増築により2つの事業所が遠すぎず、ほどよい距離に配置されることになり、園児さん同士の交流も積極的に行っています。利用者の多くは、車で5分ほどの距離にある唐津特別支援学校に通学されており、授業終了後送迎バスを利用して来所されます。まつぼっくり教室は1日定員10名で、現在17名の登録があり、多い日は12名利用されます。アルトンあかりは5名定員で、多い時は7名利用される日もあります。両事業所とも、土曜日のお預かりやご家族の希望により延長療育を実施しています。

利用者さんは、年齢の幅があり、個人差もありますが、できるだけ集団療育を取り入れることに力を入れています。この中で社会性や子ども同士との関わり合いが生まれ、キラキラした笑顔が見られるような活動に取り組んでいければと考えています。

### 相談室（障害児相談支援事業、保育所等訪問支援事業）

障害児相談支援事業では障害児支援利用計画の作成やモニタリングを行います。相談員2名で対応しています。

保育所等訪問支援事業では、対象児の支援において保育所等を訪問し、集団生活などの適応のための専門的な支援を行う事業です。この事業には訪問支援員1名を配置し、対応にあたっています。

7月30日から1泊2日で、武雄療育キャンプ（武雄市心身障害児等療育訓練事業）が行われました。武雄療育キャンプは、武雄市にお住まいの障害のある方を対象とした武雄市の委託事業で、今年度も武雄市からご家族をお迎えしました。1日目はこども発達医療センター内で行い、療育活動では紙粘土によるキーホルダーやオリジナルのうちわを作製し、個性豊かな作品ができ上がりました。また、訓練士による訓練の体験や、相談員による療育相談等を実施し、夜にはスイカ割りや花火といった夏ならではの行事を行いました。



2日目は小城市牛津保健福祉センター（アイル）に移動し、プールに入って遊び、その後『ポッチャ』というスポーツの体験を行いました。2日間を通して、参加者同士や参加者と職員が交流し意見交換を行うこともでき、「毎年楽しみにしています」との声もいただいたことから、参加者にとって実りのある2日間になったと思います。（今井康太）



## カクテルパーティー

## オークス



6月22日にオークスホール内にて、カクテルパーティーを行いました。カクテルパーティーでは、3年前からバーのマスターにゲストとして来て頂き、本格的なカクテルを利用者や来賓の方々に味わって頂いています。利用者からの反響も大きく、オークスの人気行事となっています。ノンアルコールカクテルも作って頂いていますので、アルコールが苦手な方でも楽しんで頂けようと思います。

今年は音楽サークルの先生にも来て頂き、ピアノやフルートの演奏が披露されると、雰囲気さらに盛り上がりました。知っている曲が流れると利用者の方は口ずさみながら、カクテルを楽しまれました。（寺井雄二）

## 夢かなえ事業

## かんざき清流苑

清流苑では年に数回「夢かなえ」という事業を行っており、観劇、墓参り、自宅への一泊帰宅、買い物ツアー等ご利用者の希望（やりたい事）に応じています。今回は「温泉」に入って喜んで頂こうと東脊振にある「山茶花の湯」へ7月14日に出掛けました。3名のご利用者様を案内しましたが、なんとその3名の年齢を合わせると301歳と、ビックリな数字になりました。山茶花の湯では家族風呂を貸し切り、体を洗ってから「檜風呂」に入って、その後は「露天風呂」を楽しんで頂きました。ゆっくりとお湯につかれ「あー気持ちのよーかー」と言葉が聞かれた時は、私たち職員は喜びで胸がいっぱいになりました。入浴後ご利用者の肌はすべすべで、とても綺麗でしたよ。お風呂の後はお食事です。「利休庵」でお馳走を頂き百鼓、みなさんいつもより箸がすすみ食欲も旺盛でした。職員一同ご利用者の声を大切にお世話させて頂きたいと思っています。（坂井善浩）



# 事業所 TOPICS

## 夏祭り

## からつ医療福祉センター

梅雨も明ける頃、晴れ間には蝉が鳴き始め、本番の夏が来ようとしています。

「夏」には、どこの地域でもお祭りが多く、からつ医療福祉センターでも、7月18日に14回目の夏祭りを開催しました。当日は天候に恵まれ、多数の来賓の方々、ご家族にも参加して頂き、楽しい時間を過ごして頂きました。出店の「焼きそば」や「くじ付きおもちゃ」は行列をなす大盛況で、多くの方に喜んで頂きました。地域の方や各部署からのアトラクション披露等あり、笑いあり・拍手喝采ありで、来賓、利用者、職員共々楽しい「夏祭り」を過ごすことができました。今年も夏祭りを盛大に行えたのは、地域、法人、学生、家族会からの協力のおかげと感謝しております。

今後も地域とのつながりを大切に、共に発展していけたらと思います。(淵 宏之)



## 就労者自立宿泊訓練

## かんざき日の隈寮



6月3日から5日にかけてハウステンボスの保養所を活用し、男女二グループに分かれて自立宿泊訓練を行いました。この訓練は、就労者の慰労も兼ねて、定期的実施しています。

移動はJRを利用し、乗り継ぎもありましたが、スムーズに目的地に着くことができました。保養所では環境整備、食材の買い出し、自炊をされています。夕食と朝食のメニューは、利用者主体で検討され、冷しゃぶ、チャンポン、デザート等調理されました。夕食後は、職員とトランプで盛り上がり、楽しい一時を過ごしました。二日目は自衛隊の記念館を見学し、佐世保の歴史を知ることができました。

今回の訓練について、利用者より、楽しかった、また行きたいとの声がかかれ、大変好評でした。職員も利用者の喜ばれる姿を見てこれからの支援の励みとなっております。今後も保養所等の社会資源を有効活用し、地域での自立生活を想定した訓練を企画していきたいと思ひます。(田中貴大)

## 地域交流～あつまろう会～

## 佐賀向陽園・わいわい

当施設が所在する地域(佐賀市金立町来迎寺地区)の高齢者の皆様とは、地域の行事や寄合はもとより、以前より訪問等で当施設とも交流が行われてきていました。高齢化が進み、地域で集まる機会が減っていく中で、今年度当初に参加させて頂いた来迎寺長生会の総会にて、会長や参加会員(概ね75歳以上の高齢者)の方々から、「行事や草刈り等を通じて、集まって話す機会や場所が無くなってさみしい」等との声をお聞きました。

そんな中で、長生会で月に1回定期的な交流の場所として地域の公民館を利用して、「あつまろう会」を企画しているとお聞きました。そこで、当施設としても、長年支えて頂いた地域の皆様への恩返しの気持ちで協力できることがないか考え、当施設職員の特性も生かしながら、昔懐かしい童謡や民謡を合唱したり、リズム体操等のレクリエーションを通じて、あつまった時間を楽しんで頂くことへのご協力から始めることとなりました。

他にも地域のご要望に応じて、熱中症対策や認知症について勉強会を開いたり、9月には敬老祝賀会を合同で開催する予定です。今後も交流の様子について、不定期ながらご報告させて頂くと共に、施設の機能と職員の人材を生かしながら、色々な試みに取り組んでいきたいと思ひます。(早川清十郎)



# タイムス特集

## 職員福利厚生施設紹介

今号では、佐賀整肢学園の保養所をまとめて紹介します。職員の家族やご友人での利用が可能です。(利用料：無料) 利用申し込みは、各事業所の担当までご連絡ください。



湯布院インターから車で3分。全国3位の湧出量を誇る湯布院温泉を源泉とし、もちろん保養所も温泉です。特に夏の時期の人気が高く、予約が殺到する状況です。涼しく静かな癒しの高原で、心も体もリフレッシュするもよし、移動拠点としてアクティブに大分を満喫するもよし。利用者さんの園外活動など様々な目的で利用できる保養所です。オシャレで名高い湯布院の街の散策にもおすすめです。

### 湯布院保養所 (大分県由布市)



利用料  
無料

利用料  
無料

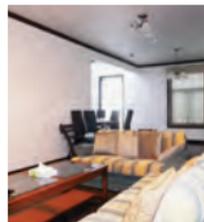
### ハウステンボス保養所 (長崎県佐世保市)



戸建て (外観)



マンション (外観)



戸建て (内観)

九州のテーマパークの代表格、ハウステンボスの別荘地(ワッセナー)の保養所です。平成25年度に戸建てタイプを取得、平成26年度にマンションタイプを取得(からつセンター)しました。春はチューリップ、夏は火花、実りの秋、冬の光の王国と、オールシーズン楽しめるテーマパークに隣接する宿泊施設として、幅広い世代に人気の保養所です。佐賀から1時間で到着するアクセスの良さも魅力的で、宿泊することでより一層、時間を気にせず思う存分ハウステンボスを満喫できます。



マンション (内観)

今後「熊の川温泉保養所(佐賀市)」を整備予定です。改めて詳しくご紹介をいたしますので、どうぞご期待ください。

# 学園FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回は、今年度より佐賀整肢学園ソフトボール部の監督に就任された、兵動文泰さん。ソフトボール部の活動やチームの課題、今後の意気込みを伺いました。

Q 新監督に就任された時の感想は？

A 前監督（原監督）が熱心だったので、正直、引き継ぐことのプレッシャーはありました（笑）

Q 兵動さん自身は、野球やソフトボールを経験されていたのでしょうか？

A 中学・高校時代に硬式野球をしていました。社会人になってからも同級生でチーム作ったりしましたが、今はしていません。ソフトボール自体は、佐賀整肢学園に入社してから始めました。ソフトボール部には入社と同時に入部したので、平成12年9月からですね。

Q 大会や練習など、ソフトボール部の活動について教えてください。

A 佐賀整肢学園ソフトボール部は、昭和49年、ボランティア団体「親和会」との懇親を目的にスタートし、40年を超える歴史があります。昭和51年に佐賀で行われた国体を機にソフトボール熱が沸騰し、当時120を越えるチームが活動する中、上位1部リーグで試合をしていた強いチームです。

近年は、年に4～5の大会に参加し、大会前に週1回程度練習をしています。活動をする事で、法人内の施設間交流を深めることがメイン。登録選手は30名弱います。最近は、家族が応援に見えることも増えていて、試合中に「パパ頑張れ！」といった声援が聞こえたり、試合後に一緒にお弁当を広げられたり…そういった光景を見るといいなと思います。



ひょうどう ふみひろ  
兵動 文泰 さん

オークス  
総務課庶務会計係

Q 今年のチームはいかがですか？

A 今年は点数を取れるチームだと思いますよ。みんな打つからね～。聖ヨゼフ園との交流戦も、引き分けたけど緊張感のある試合でおもしろかったですね。今のところ、交流戦を含め3戦2敗1分けだけど、どの試合も8点以上は点を取れています。前回の試合も、最終回まで6点リードしていたのに、奇跡の逆転負けで…。

チームとしての課題は守備！うちの投手は女性だがコントロールが抜群に良い。でも打たれることもある。打れたときの守備でしっかりリズムを作って、攻撃に繋げることが出来れば勝てると思います。

Q 最後に、今後の意気込みを一言！

A 今は2部で試合していますが、元々は1部にいた強いチームなので、また1部に引き上げたいですね。チームとしての課題をしっかり克服し、全員野球で勝利を掴む！



今期参加予定の大会

- ・佐賀地区早起きソフトボール大会
- ・佐賀新聞社旗ソフトボール大会
- ・ふれあいソフトボール大会
- ・飛翔旗争奪ソフトボール大会

今年の夏もテレビから、福島市出身の大作曲家、古関裕而作の全国高等学校野球選手権大会歌「栄冠は君に輝く」が流れ、高校球児達の熱闘が報じられた。100年目を迎えた今年の夏の全国高校野球選手権大会は、神奈川県の東海大相模高校で、下馬評どりの実力を発揮して優勝し幕を閉じた。夏の甲子園野球大会は、いまや季節の風物詩となっており、その終わりは夏から秋への季節の移ろいを私たちに感じさせ、一抹の寂寥感を覚えるのは私だけではなからう。

今年の大会は第97回であったが、半世紀前の第45回大会は、周りの人もあまり覚えておられないが、わが母校の佐賀県立武雄高校が、夏の甲子園出場を果たした大会であった。50年以上前のことで、最近の佐賀商業や佐賀北高の優勝という華々しい活躍と比較すれば、周りの人の記憶が薄れていくのも無理がないが、当時3年生であった自分にとって思い出深い大会であった。子供のころの遊びと一緒にボールを追いかけて、高校で机を並べた友人等が、全国大会の晴れの舞台で、堂々と佐賀県代表として山梨県代表の甲府商業と対戦した。母校の勝利を祈って、必死になって応援できたことは、青春時代のまことに誇らしい思い出となっている。

その後母校野球部は、半世紀以上出場を果たしていないが、是非とも県代表として活躍したいものである。

ところで、甲府商業との試合の結果もだが、元巨人軍の大エースで、監督まで務め上げ、今は参議院議員となられた堀内恒夫氏を投手として擁した甲府商業に、勝ちを譲ったとだけ記しておきたい。



こども発達医療センター  
総務課医事係

横尾 良幸

「お大事に」と患者様、そのご家族に挨拶をするようになって半年が過ぎました。あ、私は今年1月より医療事務職員として働いております。窓口業務、請求業務と初めての経験ですが医事係の先輩、患者様から指導を頂き何とか業務を遂行できています。福祉を併せ持つ病院の請求業務がこんなに難しく大変なのかと変な汗をかき、頭から煙が出そうな毎日です。

そんな忙しい日々を過ごしながら毎月、休みの日にゴルフに行くのが私の楽しみになっています。普段、パソコンと数字ばかり見ているので山の緑を目に入れた頭の中をスッキリさせています。ゴルフのスコアもおもしろい事に仕事が順調な時は良いスコアが出たりします。目指す「アマチュアチャンピオン」!!

こんな私ですが、今後も一所懸命に仕事を頑張りたい汗を流して行きます。こどもセンターへ来られた時は正面窓口へお声かけください。もちろん体調が優れない場合はカルテをご準備致します(笑)。

NEXT からつ医療福祉センターのあの人にパトタッチ!!

平成 27 年 5 月 ~ 7 月

- ボランティア受入**
- 【こども】 親和会様 佐賀整肢学園友会の会様 佐賀清和学園様 神埼清明高校様 緑生館・専攻看護学科様 SVC様 などの会様
  - 【清流苑】 水等の会様 津軽三味線VR様 むつごろうの会様 ピアノ/教室「ティンカーベル」様 オカリナ様 藤間流日舞様
  - 【からつ】 パン教室折尾幸子様 書道教室川打恒子様 民謡教室加藤万里子様 絵画教室田村静二様 陶芸教室無藤呂正様 手芸教室辰野真由美様
  - 【日隈寮】 むつごろうの会様 山崎節子様 (日舞クラブ) 三好富美子様 (生花クラブ)
  - 【向・わ】 佐賀少年刑務所様 (訪問内容) 巨瀬組弘教婦人会様 金立町社協様 (傾聴ボランティア)
- 施設見学受入**
- 【こども】 医療福祉専門学校緑生館16名 佐賀県立うれしの特別支援学校1名 社会福祉法人若楠療育センター10名
  - 【オクス】 西九州大学18名 金立特別支援学校9名 大和特別支援学校9名 佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校15名 中部地区相談支援事業所23名
  - 【清流苑】 西九州大学社会福祉学科学見習実習20名
  - 【からつ】 七山保育園1名 唐津市若菜保育所1名 唐津看護専門学校8名 くりのび保育園平田分園6名 佐賀県立伊万里特別支援学校26名 唐津市立鶴山小学校16名 長崎県立ろう学校(佐世保分校)1名 佐賀県立唐津特別支援学校68名 伊万里市立山代中学校2名 唐津市立浜崎小学校2名 かんざきひの原寮5名 佐賀整肢学園オクス14名 唐津市立免塚小学校1名 唐津市立打上小学校2名 糸島市手をつなぐ親の会34名 佐賀整肢学園・佐賀向陽園6名 唐津市立大志小学校1名 唐津市立外町小学校1名 学校法人福岡大学大飯医療保健大学1名
  - 【日隈寮】 西九州大学社会福祉学科18名 白石町民生委員25名
- 実習生受入**
- 【こども】 佐賀歯科衛生専門学校33名 株式会社佐賀銀行12名 学校法人永原学園1名 大分リハビリテーション専門学校1名 医療福祉専門学校緑生館4名 西九州大学短期大学部3名
  - 【オクス】 西九州大学短期大学部2名 神埼清明高校2名
  - 【清流苑】 佐賀女子校看護科吸引実習1名 三幸福祉実習1名 神埼清明高校介護実習4名 北陵高校実習2名
  - 【からつ】 神戸学院大学総合リハビリテーション学部1名 伊万里看護学校37名 佐賀整肢学園オクス1名 西九州大学子ども学部子ども学科2名 佐賀県立厳木高等学校(インターンシップ)2名
  - 【日隈寮】 西九州大学短期大学部生活福祉学科4名

見どころ

今回は、職員さんへ表紙写真を公募し、早速採用させて頂きました。ゲームで有名な「ロマンシングサガ」と「佐賀」のコラボ電車で、期間限定で走行した電車で。「見た!」という方もいらっしゃるのではないのでしょうか? タイムアップ特集は、佐賀整肢学園の保養所で再度紹介させて頂きました。どの保養所も快活ですよ。また、事業所 TOPICS は、利用者様に楽しんで頂くため、各施設工夫しています。どうぞ、手をとめてご覧下さい。